

【単元目標】

知識及技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
C(1)オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。	C(1)カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。	学習の見通しを持って、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに積極的に気づこうとしている。

【既習内容】

「白いぼうし」(4年) ・言葉に注意して、場面と場面のつながりを見つける。 「一つの花」(4年) ・特別な言葉に着目し、作者の思いに迫る。
--

【目指す子ども像】

主体的に学ぶ姿	①学習課題を自分ごととしてとらえる。 ②見通しを持って粘り強く課題解決に取り組む。 ③自分の考えの変容や成長を自覚する。
対話的に学ぶ姿	①叙述に即して、自分の思いや考えを言葉で表す。 ②友達と伝え合いながら自分の考えを明確にしたり、友達の考えと比べながら自分の考えを修正したりする。
深く学ぶ姿	①学び合ったことを基にして、自分の考えをまとめる。

【児童の実態】

・叙述を基に登場人物の心情を考えることができるが、自分なりに想像を膨らませることは苦手である。 ・自分の考えを文章に書くことに苦手意識がある子がいる。 ・自分の考えが持てていると伝え合おうとする意欲も高くなる。

【学習計画】

段階	学習テーマ	主な学習活動	目指す 子ども像に向けた学習内容と予想される子どもの反応	評価基準
見通し	登場人物の気持ちや変化を読み取り、音読劇にしよう。	①リード文を参考に感想交流をし、読みのめあてをもつ。 ②学習計画を立て、見通しを持つ。	【主体的な学び①】 ・「ごんぎつね」はどんな話かを中心話題に感想交流をする。交流の中で、読み方や感じ方の違い疑問点を整理し、読みのめあてをもつ。 ごんぎつねが最後に撃たれてしまって悲しい話だった。 ごんの気持ちは、兵十に伝わってなかったのかな。 伝わりかけてた時に撃たれたから、切ない話なんだよ。 みんなの意見が違ったところを話し合っていきたい。 【主体的な学び①②】 ・学習課題を解決するために、どのように学んでいくのかを考え、学習の見通しを持つ。 物語だからごんや兵十の気持ちの変化を読み取っていくと良い。 読み取った気持ちを音読に生かしていけると良い。 音読劇の時に使うペープサートも気持ちがわかるようにつくりたいな。	・「ごんぎつね」読み、進んで考えたことを伝え合おうとしている。 【主】記述・発言 ・学習計画を立て、課題解決のための見通しをもっている。 【主】記述・発言

③それぞれの場面の視点人物と場面設定を確かめ、場面の様子や出来事をまとめよう。

④いたづらをするごんの気持ちについて考えよう。

⑤ごんの気持ちが変わったところについて考えよう。

4年2組本時

⑥兵十につぐないをするごんの気持ちについて考えよう。

⑦5・6の場面の兵十の心情と変化について考えよう。

⑧⑨ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことをまとめ、話し合おう。

【主体的な学び②】
・「気持ちを表す言葉」などを参考に場面ごとの視点人物を確認をする。

1場面はごんの気持ちがよくわかるけど、兵十がどんなことを考えて魚を捕っているかははっきりしない。

兵十の気持ちはわかる場面とわからない場面があるね。

【対話的な学び①】
・行動描写や情景描写の視点を持ち、場面読みをする。

(1の場面) からっと晴れていたら、ごんの「ちょっといたづらしたくなる気持ちもわかるな。

ひとりぼっちの小ぎつねだから、みんなにいたづらをして、自分を見てもらいたかったのかもね。

情景描写や色の描写でも気持ちがわかるんだ。

【対話的学び①】
・読みの視点を意識して読み、付箋を使って学び合うことで、人物の気持ちの変化を考える。

赤いさつまいもみたいな顔が今日はなんだかおれているところからかわいそうという気持ちが出てきたんじゃないかな。

情景を見てだんだんとごんは兵十のことをかわいそうだと思うようになったんだな。

【対話的学び①】
・兵十に対するごんの気持ちが想像できそうな言葉を見つけ、語句を比較しながら気持ちを考える。

最初はぬすんだいわしを投げ込んだだけだったよ。とりあえずやってるって感じ。

何日間も続けているから、やってしまったことに対して反省をしているんだと思う。

【対話的な学び②】
・兵十の行動や気持ちを場面ごとに確認し、そのつながりから、6の場面の兵十の気持ちを考える。

「ぬすみやがった」という言い方からごんを憎んでいた。

ごんが自分にしてあげていたことに気づいて、撃つことを後悔している。

【深い学び】
・心情曲線を使って話し合い、自分の考えを整理したり修正したりする。

うなずいているから、兵十と気持ちは通じたと思う。

ごんの命がなくなったときに兵十が気づいているから、悲しいけど通じていないと思う。

撃って初めて心のずれがなくなっている。固めておいてあった栗を見て気づいた。

・叙述に着目して読むことで様子や行動、気持ちを表す語句の量を増やしている。

【知・技】記述

・情景描写や行動描写のとらえ方がわかり、場面の様子や気持ちを想像している。

【思】発言・記述

・情景描写や行動描写、会話文などの叙述をもとに、登場人物の気持ちの変化を読み取っている。

【思】記述・発言

・ごんの行動に表れた気持ちの変化を読み取っている。

【思】記述・発言

・兵十の行動や情景から気持ちを想像しその変化について、自分なりの考えをまとめている。

【思】記述・発言

・友だちの考えとの相違点をとらえ、自分の考えをまとめることができる。

【思】記述・発言

ひろげる	⑩⑪学習したことをもとに、音読の仕方について話し合おう。 ⑫音読劇発表会を開き、感想交流をしよう。	【深い学び】 ・学びあったことを基にして、読み方の工夫について修正したりまとめる。 兵十の部分は最初と最後で気持ちが全然違うから、読み方を変えた方が良い。 確かに、「ごん。おまいだったのか、・・・」という言葉は兵十の後悔する気持ちが表れるように読もう。 【主体的な学び③】 ・友だちの発表を聞いて自分の意見と比べることで、自分の変容や成長に気づく。 最初は気持ちをこめて読むところは会話文だけだったけど、地の文には情景もあることがわかり、気持ちをこめて読んだり、考えたりしてみたいと思う。 それぞれの班で読み方が違うところから、同じ部分でもみんなの考え方や感じ方が違うことがわかった。	・根拠を明確にして話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。 【思】 記述・発言 ・一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えの変容や物語文の読み方についてふり返ることができる。 【主】 記述・発言
------	---	--	--